

| 学校教育目標                          |                 | 志を持ち、自ら考え行動できる児童生徒の育成   |  | 重点目標 | 自分の思いや考えを根拠をもとに伝える子供の育成   |    |  |  |            |
|---------------------------------|-----------------|---|--|------|---|----|--|--|------------|
| 評価計画                            |                 |   |  | 自己評価 |   |    | 学校関係者評価  |  | 改善計画       |
| 重点目標                            | 重点目標            | 目標達成のための方策 (取組指標)   | 成果指標   | 評価   | 結果 (成果○と課題△)  | 評価 | コメント   |  | 次年度における改善策 |
|                                 |                 |   |  |      |   |    | 改善計画   |  |            |
| 重点目標に<br>関する<br>子供の<br>育成<br>評価 | 聴いて考え、表現する子供の育成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○拡大基礎タイムを4～6年に位置づけた習熟度別学習、及びTTによる低学年へのきめ細やかな指導の実施</li> <li>○自分の思いや考えを根拠をもとに伝える子供の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「場のしかけ」「発問のしかけ」による「話す・聴く」活動を学習過程に位置付けることによって授業改善を図る。</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の単元テスト <b>平均80以上</b></li> <li>・算数科の単元テスト <b>平均80以上</b></li> <li>・友達や先生の話や意見を聴いて、自分の考えを捉え直すことができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3以上</b></li> <li>・絵や図、文章などを使ってまとめた自分の考えを他者に伝えることができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3以上</b></li> </ul>  | 4    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○加配教師の活用で、低学年の基礎・基本の定着が図られている。</li> <li>○国語科の帯の時間の取組で、言語及び、読解の向上が見られた。</li> <li>△自分の考えを伝え合うことはできて、相互の考えの吟味や練り上げにまでは至っていない。</li> <li>○低学年でも、具体物などを操作しながら考えを伝えることができてきた。</li> </ul>                                      | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価は適切である。</li> <li>・理解度に応じて分けたグループ学習は、大変効果的だと思う。</li> <li>・学校の自己評価は適切である。</li> <li>・「分かる」「できる」の成功体験の積み重ねが、児童のやる気につながると考える。</li> <li>・授業に対話の時間が設定されていて、子供たちが主体的に参加する様子が見られた。今後、成果が大きく表れると思う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の語彙を増やす内容を重点的に取り組ませる。</li> <li>・タブレットを活用させ、習熟度に応じた自主学習に取り組ませる。</li> <li>・主題研究を中心に、交流活動での観点を示し、考えの統合や序列化をする場を設定する。</li> <li>・標準学力調査やプレテストの結果で児童の習熟度を個別に把握し、5, 6グループに細分化した習熟度別の学習を行う。</li> </ul>   |            |
|                                 | 豊かな心 (やさしく)     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳教育、特別活動、人権・同和教育の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの場面での交流活動の設定</li> <li>・道徳ノートを活用</li> <li>・学級目標を目指した学級会の自主的運営</li> <li>・いいところ見つけの実施・定着</li> <li>・地域・校区の「ひと」「もの」「こと」との交流活動の充実</li> </ul> </li> <li>○基本的な生活習慣の定着               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「挨拶・黙々掃除・名札着用・靴揃え」の取組</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のがんばったところを分かる(低)学習の中で自分の良さに気づく(中・高)ことができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3以上</b></li> <li>・道徳の学習で、様々な登場人物の立場で道徳的価値を考える(低)登場人物に自分を置き換えて道徳的価値を考える(中)道徳的価値を支える様々な根拠を考える(高)ことができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3以上</b></li> <li>・学級の一人として、自分の役割を果たす(低)集団の一人として、責任を果たす(中)集団の一人として自ら活動する(高)ことができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3以上</b></li> <li>・友だちのいいところを見つける(低)友だちや学習のいいところを認める(中)友達や学級の良さを認める(高)ことができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3以上</b></li> <li>・進んで挨拶、返事をする。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3以上</b></li> <li>・毎日きちんと名札を着用することができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3.5以上</b></li> <li>・黙って最後まで掃除をすることができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3以上</b></li> <li>・トイレのスリッパや靴のかかとをそろえて並べることができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3以上</b></li> </ul> | 3    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳ノートを綴っていくことで、年間を通して自分の行動の価値を見つめ直すことができた。</li> <li>△道徳的価値を自分事として考えさせるための、資料の取扱いや発問を工夫する必要がある。</li> <li>△感染症対策のため異学年交流が縮小し、高学年としての態度や行動を体験する機会が少なかった。</li> <li>○帰りの会やメルシーアーチの取組で、友だちのいいところを見つけることが習慣化してきた。</li> </ul> | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価は適切である。</li> <li>・自分や友達、学級の頑張りを評価できる豊かな心の子供が育っているように見受けられる。</li> <li>・自分がされて嫌なことを他人にしないということを、もっと自分に置き換えて考えられるようになって欲しい。</li> <li>・家庭での接し方にも要因があると思う。学校と家庭が連携して、児童一人ひとりを認め合える環境ができるとよい。</li> <li>・先生方が子供たちの発言に耳を傾けていて、学級の雰囲気がよい。安心して話せるという思いや意見が認められる経験から、他者との信頼関係が生まれていくものだと思う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校朝会や各行事等で児童の良さや頑張りを賞賛し、よりよい行動を意識させ、行動意欲を向上させる。</li> <li>・道徳科の学習において、低学年では特に、中心人物の心情に共感させ、自分事として捉えさせることを狙いとした授業の充実を図る。</li> <li>・異学年交流の場を増やし、一人一役などで、高学年として下学年の世話や行事の進行などを多く経験させる。</li> <li>・学習の振り返りの観点として、友達との交流活動に関するものを提示し、他者との関わりを常に意識させる。</li> <li>・各種委員会活動で、よい行動をした児童や頑張りを賞賛できる児童を紹介する場を設定する。</li> </ul> |            |
|                                 | 健やかな体 (たくましく)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康、体力づくりの充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむたっ子ストレッチ、サーキット運動、元気っ子タイム、外遊びの推進</li> <li>・給食後の歯磨きタイムの設定</li> </ul> </li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力を向上させるために、自ら外遊びや運動ができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3.5以上</b></li> <li>・給食を時間内に食べ終わり、食後に進んで歯磨きができる。<br/><b>教育活動評価4段階評定尺度3.5以上</b></li> </ul>   | 3    | <ul style="list-style-type: none"> <li>△学級遊びには参加するが、自発的に外遊びをしていない児童への手立てが不十分。</li> <li>△時間内に食べ終わらない児童が固定化しており、完食に対する意欲が低下してきた。</li> </ul>   | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価は適切である。</li> <li>・気候変動で厳しい環境の中、よく管理されているように見受けられる。</li> <li>・給食指導が行き届いていると感じた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場や遊具の整備を進め、児童の外遊びや運動への意欲を高める。</li> <li>・給食委員会と連携し、時間内完食の達成感を感じさせる取組を実施する。</li> </ul>   |            |

自己評価 4：目標達成(90%以上)  
学校関係者評価 A：自己評価は適切である

3：ほぼ達成(70%~90%)  
B：自己評価は上方修正すべきである

2：もう少し(60%~70%)  
C：自己評価は下方修正すべきである

1：できていない(60%未満)  
D：自己評価は不適切である